題　　言

過去1年間わが研究所全員が心血を注いだ各種調査研究結果がまとまつた。これを北海道立衛生研究所報第16集として各位にお届けできることを光栄に思う。かねてからわが道立衛生研究所は多くの研究機関の中にあつて比較的高水準の業績を挙げているとの評判を各方面から頂いてきた。本所報によつて相変らずその名声を維持できるものと信じる。特に昨年4月に中村　豊前所長の後をおそつた自分にとつて本集の発行はこの上ない悦びである。

収録された報告は疫学に関するもの12篇，食品化学2篇，薬学5篇，及び生活科学関係8篇の計27篇で乏しい予算に比してかなり尨大なものとなつた。

昨年度わが道立衛生研究所機構の一部改正が行われた。公害科が新設されたのを機に従来の環境衛生学部を廃し，環境衛生科，放射能科，栄養化学科，食生活科学科及び公害科の5科を統合して生活科学部が設けられた。公害に関する報告が本集から掲載されはじめたのはその成果の一つである。他方本集を通覧すると数年又は拾数年継続の報告がむしろ多いのに気づく。所員の調査研究が益々深く，いよいよ鋭く，夫々の問題を掘りさげつつあるためである。同僚飯田広夫副所長が第19回北海道新聞文化賞受賞の栄与をにない更には川端純一栄養化学科長が昨年度の北海道食糧栄養学会賞を又大野善右エ門特別研究員が今春第14回日本衛生動物学会賞受賞の栄に輝いたの等はその証左である。

収録されている各報告に言及する暇がないが本集に収録した報告はいずれも優秀な傑作ぞろいであると信じ，よろこんで巻頭言の執筆を約したが禿筆思うことの半ばをも尽せない。

擱筆するに当りわが研究所に深い御理解を持たれ，常に変らぬ指導，助言，激励を惜まれなかつた各方面，就中北海道衛生部の御好意に深甚の謝意を表する。

昭和41年6月

北海道立衛生研究所長
安　保　　寿